

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870400383
法人名	テルウェル西日本株式会社
事業所名	グループホーム サルビア
所在地	愛媛県八幡浜市江戸岡1丁目2-9
自己評価作成日	平成26年6月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

穏やかな時間のなか、入居者が自分の思うようにあたりまえに生活できるように一人一人を大切にしたい支援を行っている。入居者間の喜怒哀楽を感じることが出来る職員であり、1日の勤務終了時には疲れたと感じても、楽しんで勤務を終了することができるようにと日々指導を行っている。また、家族との繋がりも大切に、面会に来所された時には、必ず生活状況を伝えるようにしている。また、職員も時間が許せるのなら、一緒に入居者・家族と過ごす事ができるように工夫をしている。食事においては嚥下が可能な限りは普通食で食事をして頂き、1日でも長く、食べることが出来るように支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の外部評価時の話し合いが取り組みのきっかけとなり、2年前から自立度の高い利用者は地区の敬老会に参加できるよう支援されている。利用者は、地域の高齢者と席を同じにして、ゲーム等も一緒に楽しまれたようだ。事業所で区費を納めるようになり、地区の役員の方とも顔見知りになって、老人会の事情等を教えてもらったり、5月の避難訓練時には数名の方を誘って参加して下さった。新聞配達の方に誘われ、美化担当職員が河川敷の掃除活動に参加されている。
年2回の家族会は、日程を早めに案内して、10家族ほどの参加がある。会の後には戸外で芋煮会等を行い、一緒に食事しながら交流できるよう取り組まれている。又、年4回発行する事業所便り、写真を多く採り入れて利用者の様子を見てもらっている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 GH サルビア

(ユニット名) さくらんぼ

記入者(管理者)

氏名 大森 千代

評価完了日 26年 6月 25日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ●「あたりまえ」という理念のもと、入居者が普通の生活・要求ができるように職員全員で耳を傾け、ケアを行っている。	
			(外部評価) 「あたりまえ」と事業所理念をつくり、事務所に掲示して、「利用者があたりまえの暮らしができるような支援」を目指しておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ●もちつき大会は恒例になったもののホームと家族の交流で終わっている。しかし、ホームの事業で庭で実施できるものは実施、外を通られる人たちへPRも兼ね入居者の様子も見て理解して頂くチャンスだと思っている。 ●散歩時には、すれ違う人たちと会話をしたり挨拶を交わしている。顔見知りもでき、世間話も時間がある時にはする。	
			(外部評価) 前回の外部評価時の話し合いが取り組みのきっかけとなり、2年前から自立度の高い利用者は、地区の敬老会に参加できるよう支援されている。利用者は、地域の高齢者と席を同じにして、ゲーム等も一緒に楽しめたようだ。事業所で区費を納めるようになり、地区の役員の方とも顔見知りになって、老人会の事情等を教えてもらったり、5月の避難訓練時には数名の方を誘って参加して下さった。新聞配達の方に誘われ、美化担当職員が河川敷の掃除活動に参加されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ●地区役員さんからの声かけがあり、初めて地区の清掃作業に参加した。 ●26年度は地区役員さんから区費の相談があり収めるようにした。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議のメンバーはホームの現状を十分に理解して頂き且つ、適切な代弁して下さり当ホームの進むべき道、地域での役割を示唆して頂いている。 ●施設行事の見学もして頂き、話し合いだけでなく実践も見て頂き、ご指導も頂いている。 ●26年度1回目は地区役員さんの声かけにより地区住民の参加もみられホームの見学もして頂いた。 <p>(外部評価)</p> <p>会議時には、避難訓練を行ったり、音楽レクリエーションを見学してもらったり、現状や事故報告等も行っておられ、事業所のことを知ってもらい、本音をお聞きしたいと取り組まれている。他グループホームからの参加もあり、取り組み等を紹介してくれており、レクリエーションや外出先等、支援の参考にされている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市の担当者にも運営推進会議のメンバーに加わって頂き助言を頂いている。また、市主催のGH連絡推進会議にも出席し助言を頂いている。 ●市立病院の医療連携室とは、当ホームの入居者が入院された場合には早期退院に向けての情報交換等を行っている。 ●介護保険審査会にも参加し職員との情報交換もっている。 <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議には地域包括支援センター担当者が参加しており、会議メンバーを増やすために、「地域推進員に相談してみてもどうか」等とアドバイスしてくださっている。又、会議にはふれあい相談員の方の参加もあり、活動を通じての提案やアドバイスがある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●身体拘束は行わないという介護を職員に徹底している。しかし、入居者に危険が伴う場合は考慮するが、現時点までには拘束は行っていない。 <p>(外部評価)</p> <p>ベッドから転落の心配がある利用者は、ベッドわきに敷き布団を敷いて衝撃を緩和できるようにしていたり、這って移動する方には、スポンジマットを敷いて対応されていた。事業所ではできる限り、車いすを使用せず、手引き歩行や職員が2名で介助して、ご自分の足で移動できるような支援に時間をかけて努力をされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ●身体拘束と同じ虐待もあってはならないと考えている。そのことについては、職員に『人としての在り方』から始まり、『良識ある社会人』として、日々の会話の中や職員会の雑談の中でも話し合いをしたり、助言をしている。 ●また、言葉かけ等に疑問を持った時には、その都度注意をおこなっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ●現在当ホームに1名の成年後見制度利用者がおり、今後も利用者の権利擁護のため積極的に活用を考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ●定められた事はきっちり行っている。入居前に必ず訪問し、身体状況を把握すると共にその時に契約に関する説明を行う。説明に時間のかかるものについては、入居時までには熟読して頂き、入居時に不明な点については、再度確認し説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ●家族会や家族交流会等で情報収集を行い、入居者の対応等改善できることは職員と話し合い改善できるようにしている。また、さわやか相談員さんからの意見も汲み取るようにしている。推進会議の場で事例検討等入居者の話をした場合には助言を頂き、改善できるように心がけている。 (外部評価) 職員は、介護計画作成時やご家族の来訪時に利用者の現状を報告して、「言ってもらった方が改善につながるの」と意見や要望を聞くようにされている。年2回の家族会は、日程を早めに案内して、10家族ほどの参加がある。会の後には戸外で芋煮会等を行い、一緒に食事しながら交流できるよう取り組まれている。又、年4回発行する事業所便り、写真を多く採り入れて利用者の様子を見てもらっている。	ご家族が要望や意見を出しやすいように、働きかけ等についても工夫されてみてはどうだろうか。たとえば、食事について、外出支援について等、ご家族が具体的に考えやすいように配慮してみてはどうだろうか。又、ご家族と一緒に活動したり、又、一緒に勉強するような機会も作りながら、利用者の「あたりまえ」の生活をともに支えていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>●管理者は職員会やミーティング・日常会話等から職員の意見を聞き、支店担当者及び担当課長・部長に報告を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>研修、レクリエーション、家族会、広報、防災等、職員個々に業務担当を決めており、それぞれが責任を持って取り組めるような仕組みを作っておられる。業者による音楽レクリエーションを採り入れることを試されたが、利用者のレベルの差等もあって、採り入れることには難しさがあったようだ。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>●担当職員は月1回以上は松山より来所し、また何かあるごとには部長・課長が来所し相談にのって頂き対応してもらっている。</p> <p>●資格取得者には資格手当の支給があり、また、資格をとろうとするものにおいては、受験日は勤務とし、資格取得すれば受験費用が支給されている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>●職員一人一人のレベル把握を行い業務に支障のない限り研修会の参加をしたり、月1回施設内での勉強会を開催し、自己研鑽に努めている。また、26年度は職員からの希望も聞き、できるだけ研修会に参加できるように配慮をしている。</p> <p>●研修会は勤務扱いで研修費は会社負担の為助かっている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>●他2GHのGH連絡協議会にも出席させて頂いている。管理者だけが出席するのではなく、介護主任を始めとシテーマにあわした職員の出席も行い交流やネットワークづくりを行っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>●入居前には状況把握も兼ね必ず訪問させて頂き、顔を覚えて頂くようにしている。できる限り、入居前までには、ホームの見学にきて頂き、ホームの雰囲気を感じて頂くようにしている。信頼関係においては、入居時から構築できるように職員全体で取り組んでいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ●入居前には必ず訪問し、家族の要望をくみ取ることができるようにしている。信頼関係づくりは、入居者との信頼関係も大切であるが、家族は入居するしないにかかわらず相談時から信頼関係を構築することができるよう、安心してホームで生活を託すことができるように相談援助ができるように心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ●初回の相談時に本人・家族のニーズを見極める事は困難ではあるが、悩みを聞くことにより今利用できるサービス・支援と一緒に考えると共に、入居するしないに関わらず、いつでも相談できる関係作りを考え対応を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ●入居者と一緒に生活をしているという事を念頭におき、共に感じ共に涙することができる関係づくりに心がけている。家族になるのは難しいが、一緒に生活することで、家族より一緒にいる時間が長い馴染みの関係ができていると思われる。ある家族からは職員が読んでいる名前の方が反応がよいと言って頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ●上記と同様に家族の立場を尊敬しつつも、家族以上の馴染みの関係が構築できるように努めている。そのことにより家族が安心してホームでの生活に頼ることができればと考えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ●知人・近所の方が面会に来て下さった時には、自室でゆっくりと面談して頂いたり、許せるなら職員も交えてお茶の時間をもち、楽しい時間を過ごすことができるように努めている。帰る際には必ず再来をお願いしている。また、写真撮影を行い、毎月のお便りに配信している。 (外部評価) 年の初めに三島神社に初詣に出かけた際には、神主さんにお祓いをしてもらった。事業所へは、新しく入居した利用者の写真を載せて、知ってもらえるよう紹介されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ●入居者同士の性格やその時の状態を考慮し、必要により入居者同士の会話の仲介を行ったり、お茶の時間には職員も一緒にテーブルについて話を楽しんでいる。トラブルの多い入居者においては、双方を傷つけることなくフォローすることができるように援助をおこなっているが、苦慮するところである。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ●退去されたご家族に出会った時には、話をしたり一緒に生活された入居者を気にして下さったりと、馴染みの関係が続くことができるようにしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ●日々の生活の中で、把握に努めている。一人の時間を大切にしたい入居者には自室での時間を楽しんで頂いている。また、職員の時間の許せる限り、一緒に散歩・買い物・ドライブと出掛けている。また、どうしたらよいかも、カースカンファレンスで検討を行っている。 (外部評価) 日頃の利用者とかかわりの中で知ったことをカンファレンスで話し合い、職員同士で情報を共有されている。利用者の意向欄にはご本人の言葉を記入されていた。	日々の中でも利用者が選んだり決めたりできるような場面作り工夫して、利用者の希望や思い、意向を引き出すアプローチに工夫されてほしい。さらに、利用者一人ひとりのあたりまえの暮らしのあり様を探り、利用者が最期まで自分らしく暮らし続けられるような支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ●入居者本人からの会話の中や家族からの情報を得ることができるように常に心がけているも、重度の方や家族が遠方の方は難しい所もある。また、職員が把握しても共有という所が難しく勉強していく必要がある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ●入居者本人からの会話の中や家族からの情報を得ることができるように常に心がけているも、重度の方や家族が遠方の方は難しい所もある。しかし、職員が把握している分で入居者の一人一人の過ごし方を大切にするよう心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>●職員全体で取り組んでいるが、担当職員が主でケースカンファレンスを開催し意見交換を行っている。面会時には家族の思いも把握を行い、介護計画へとつなげている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>半年ごとに介護計画を見直しておられる。ご家族からは、「寝たきりにならないように」等の願いもあり、現在は、身体機能や健康状態を考慮した計画を作成されている。</p>	<p>利用者の思いや意向を計画につなげ、利用者個々が意欲や自信を持って暮らし続けられるよう、計画内容についても工夫を重ねていかれてほしい。又、地域資源を活かした計画やご家族も一緒に利用者を支えていけるような計画等にも、工夫されてみてはどうか。</p>
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>●ケース記録用紙は1日毎に記録する形式をとっている。上部に援助目標をプリントし、達成状況を記している。また、月間記録には評価に生かす事ができるようにまとめを行っている。</p> <p>●職員が休みの日は日誌や変化のあった入居者は記録用紙で確認し、統一事項は申し送りノートで確認を行っている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>●入居者の家族が宿泊されたり、一緒に食事をしたり、また介助のいる入居者は入浴の様子を見て頂いたり、できるだけ家族の要望に答えている。</p> <p>●入居者の状況に応じて、通院等の支援を行いホームでできる対応は援助することができるようにしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>●月1回さわやか相談員が訪問し、ホームの素顔を視て頂いている。また、運営推進会議のメンバーである民生委員の方々も家族交流会に参加して頂けるように声掛けを行っている。</p> <p>●福祉サービスの利用→高齢者外出支援事業</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本人・家族が希望する主治医となっている。2か所の医療機関から月2～3回往診を受けている。それ以外の定期的受診は家族にお願いしている。 ●本人が必要とする医療においては主治医と相談し紹介して頂いている <p>(外部評価)</p> <p>終末期には、かかりつけ医からご家族に、利用者の状態について説明があり、職員も同席して今後のことについて話し合うようになっている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護職員を配置しているので、24時間連絡体制がとれ医療面の相談・助言の対応ができるようになっている。 ●市立HP医療連携室とは気軽に相談できる関係を築いている。 ●入居者主治医の看護師とは情報交換や相談ができるように努めている。 	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●入院時には管理者や担当職員を主にお見舞いに行き、本人の観察を行うと共に、当ホームの受け入れ体制等を医師や医療スタッフと話し、早期退院に向けての調整を行っている。 	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●当ホームの方針を家族会を通じて説明を行い終末期ケアの意思確認を行っている。協力医をはじめ往診対応して頂いている医療機関とも当ホームの実情を理解して頂いているため協力的に対応して下さっている。 <p>(外部評価)</p> <p>今年95歳を超える利用者の看取りを支援した事例がある。お歳のことも踏まえて、ご家族は自然死を希望され、医師、職員と方針を共有して支援に取り組まれた。事業所では、口にできるものを食べてもらったり、居間に出て他利用者とお過ごす時間も大切に支援された。夜間は、ご家族が順番に泊まり、ご家族の揃った時に最期の時を迎えられたようだ。泊まるご家族へは、希望に応じて食事も提供されている。看取ることについて不安に思う職員もあったが、管理者は、「ご家族の希望していること」であることを繰り返し話し、職員が意識統一して取り組めるよう努められた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ●マニュアルを作成しているが、なかなか定期的には実施できていないのが現状である。 ●年2回の防災訓練のうち1回は応急手当等の対応を消防職員より指導して頂いている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ●火災時は消防署から2分の立地条件のため、「死亡者を出さない」を教訓に毎年避難訓練を実施し、職員に徹底している。 ●25年度は夜間火災を想定し、避難訓練を行った。 ●災害用の備蓄品を備えている。 ●今年度行った避難訓練に地区住民4名の参加を得ることができた。 (外部評価) 運営推進会議と合わせて避難訓練を行った際には、ご家族には利用者役になってもらう等して協力していただいた。津波の折りには、近くにある法人ビルに避難することとなり、居室入口に吊り下げているライフジャケットを着用することになっている。運営推進会議時にはメンバーから意見や提案をいただき、又、消防署からの助言で一階居間から外に出られるよう、階段を付けることを計画されている。調査訪問時は台風が接近しており、テレビニュース等で情報を得ておられた。14品目の備蓄内容について事務所に一覧表を貼っておられた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ●常に入居者の立場に立ち、親しみの持った口調で声掛けを行い、丁寧な対応ができるように心がけている。個人的な相談等については自室や事務所等を利用し他の入居者に気を使われることない場所で行っている。 ●本社の方からも、毎年個人情報保護においては資料が届き職員に職員会で通達している。また、日々、漏えいがないように注意するよう心がけている。 (外部評価) 昼食時、目の不自由な利用者は、食事前のあいさつをしていただき、皆でいただきますとあいさつして食事を始めておられた。その後、職員は、ご本人の肩や手に触れながら食事内容や形態等を伝え、ご自分で食べられるよう支援されていた。利用者は必要時に職員を呼び、不自由なことがあれば「どうしたらいい？」と相談されていた。トイレを安全に使用できるように、トイレの扉を開けて使用することを支援されていたが、プライバシー配慮の観点から職員で話し合い、日中の使用時には、扉を閉めて利用できるよう改善された。排泄時職員の見守りが必要な利用者は、居室にポータブルトイレを設置して利用してもらっている。介助の必要な利用者の入浴後は、上着は着替えて、下半身はバスタオルを巻き、自室で着替えを支援する場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ●1:1の会話ができるように心がけている。入居者の思いや希望がくみ取ることができ、満足して頂ける援助が行えるように努めている。また、満足して頂けなくても、せめて、納得して頂けるように日頃から信頼関係を築き、誠心誠意対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ●入居者のペースを大切に援助を行っている。食事・入浴・入眠時間等利用者のその日の気分に合わせている。何日も入浴されなくても、無理強いせず、本人から入浴する気持ちになるように援助を行う。食事も自己摂取できる方は時間がかかっても、食べて頂く。できる限り、出来る事は本人にして頂き、職員は見守りを行う。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ●自分で選ぶことができる人は少ない。季節はずれの服装をしている場合は、職員と一緒に選ぶようにしている。 ●出張美容は月1回来ており、利用するもしないも、本人の意思決定をして頂く。毛染も利用される入居者さんもおいでる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ●食べて頂くことを優先し、その人のペースで時間がかかっても食べて頂く。 ●生で食べる物以外は入居者にできる下ごしらえはして頂く。 ●職員も同じテーブルで食べながら、会話を楽しんだり、出来たおかずの評価をしたりして、楽しんでいる。 ●お誕生会には、誕生者の食べたい物で、お祝いをするようにしている。また、お誕生日ケーキやお誕生日饅頭とプレゼントでささやかであるがお祝いをしている。 (外部評価) 朝食と、火曜、木曜の昼食は事業所で食事を手作りされている。一階ユニットは、ご自分で注ぎ分けられた食事を台所に取りに各自で行かれていた。2階ユニットでは、トレーに配膳したものを職員が利用者の席まで運んでいた。目の不自由な利用者には、ごはんをおにぎりにする等して手でも自由に食べられるようにしていた。食欲がなかった利用者に職員は、「よう食べよるな」と感想を伝えたり、「がんばって」と言葉をかけておられた。月に1回誕生会を行い、好きな食事等のリクエストに応えお祝いされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ●基本的に食べて頂くことを優先している。食事量の少ない人には、食べ残しがあると気の毒そうにされるので、食べれる量で対応を行っている。また、好き嫌いのある人には、嫌いな物においては少しにし、食べて頂くように声掛けを行う。 ●水分摂取においても、定時の他に入居者の希望で飲んで頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ●毎食後口腔ケアの声かけを行っている。自分でできる人は拒否がない限りは実施している。 ●歯科治療の必要な人は協力医の往診で対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●尿意・便意の曖昧な方には、排泄パターンを把握し、誘導する事で排泄を促している。 ●入所当初は自立でも、機能低下でリハビリパンツや尿とりパットを利用する入居者が増えてはいるが、出来る限りトイレでの排泄を促している。 ●排便においては、訴えの無い人でもトイレで排便して頂くようにしている。 <p>(外部評価)</p> <p>介助の必要な利用者も、歩いてトイレまで行って排泄できるような支援に力を入れて取り組まれている。排泄に時間を要する方は自室にポータブルトイレを置き、日中も使用されている。排泄用品費用の軽減にもつながっているようだ。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●なかなか、野菜を食べてくれない人には便秘予防という事で声掛けを行い少しでも食べて頂くようにしている。 ●水分補給・散歩等を心がけてはいるが、便秘が続く入居者においては間隔をみては、緩下剤を利用している。 	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自立者は毎日入浴して頂くことを基本としているが、介助が必要な人が増えてきたため介助で入浴される入居者は3日に1回の入浴ができるように対応している。また、便失禁等で汚れた場合はシャワーや入浴を行っている ●ご自分で入浴時下着を洗濯される入居者もいる。 <p>(外部評価)</p> <p>入浴を嫌がる利用者もいるが、利用者のプライド等も大切に「気分を害さない声かけ」に努め、入浴につながるよう支援されている。浴室まで行って湯船に手をつけてみたり、脱衣所まで一緒に行き、「無理しなくてもいいですよ」と言葉をかけて職員が席を外すと、ご自分で脱衣して入浴するようなこともあり、入浴後は「気持ちよかったから、あなたも入ったら」とすすめてくださるようだ。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●19時にホットミルクの水分補給後睡眠に入るが、それぞれのペースでホールでTVを見られてから各自自室に帰られる。楽しいTVがあれば遅くまでTVを見られ、自分のペースで自室に帰られる。 ●自立者は日中は自分のペースで自室とホールを上手に使い分けておられるが、できるだけ、ホールで過ごして頂けるように声かけを行っている。 	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ●ケース記録に薬の効能書きを閉じ、変更があった時には申し送りをを行い、申し送りノートにも記録し職員全員が把握できるようにしている。 ●誤薬防止のために必ず日付といつの薬かを確認し手渡しを行い飲み込みまで確認している。自分で服薬できない人には、職員が口腔内に入れ飲み込みを確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ●閉ざされた空間のなか、役割、楽しみを見つけることは難しが、入居者一人一人のできる事楽しみをみつけ、援助することができるようにしている。気分転換においては、カラオケをかけたたり、散歩や買い物・ドライブ等職員も努力はしている。 ●全盲の入居者には役割として、食事の挨拶の音頭とりをして頂いている。また、お世話好きの入居者には、他の入居者のエプロンを食事時につけて頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ●家族が面会に来られた時には一緒に外出され、食事やお墓参りに行かれる。また、外泊される入居者もいる。 ●年2回はマイクロバスで遠出を行っている。 ●できる限り散歩に出掛け、気分転換を行っている。買い物も希望があれば一緒に近くのスーパー・薬局に出掛けている。 (外部評価) 利用者から外出の希望はあまり出ることはないようだが、テレビを見ていて、「今年はお花見はどこに行くの？」と聞かれることもあるようだ。年2回、計画を立て、貸し切りバスで初詣や野村ファーム等に出かけておられる。外出先のトイレの環境等もあって、出かけて行く先に制限もあり、回数も減ってきている現状にあるようだ。今後は散歩がてら、避難場所まで行ってみることも取り組みたいと考えておられた。	利用者が地域とつながりを持って暮らし続けられるよう、地域の中に個々の楽しみを作っていくような取り組みもすすめていかれてほしい。思い出の場所やなじみの場所を探って出かけたり、新たにお気に入りのパン屋さんや喫茶店を探す等、地域の中に楽しめる場所を開拓されてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ●自分の財布を持たれている方もおいでる。買い物に行った時には、支払いのできる入居者には自分で支払いをして頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ●さわやか相談員さからの提案で年賀状を試みたが、なかなか書くことができず、発送するまではいかなかった。電話においては、職員にかかった電話でも、必ず入居者と話すようお願いをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●手作りの暖簾や壁掛け、またホールのボードには毎月の写真を貼って楽しんで頂いている。 ●夏にはゴーヤを植え目と食を楽しんでいる。 ●裏の畑では季節にあった野菜を植え、眼と舌で楽しんで頂いている。 <p>(外部評価)</p> <p>利用者の多くは日中居間でほとんどの時間を過ごされており、誰かは見ているようでテレビが点いており、調査訪問時、午後のひとはカラオケ番組が点いていた。2階ユニットは、利用者が折り紙で作った輪飾りが天井から吊るされていた。1階ユニットは窓の外にゴーヤのカーテンを作っており、調査訪問時は台風の影響もあってゴーヤのつるが揺れているのを見て、利用者が「風があるね」と話しておられた。さらに、利用者の活動を触発するような環境づくりについても工夫できることはないか、話し合ってみてはどうだろうか。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ホールにはソファを置き、入居者がゆっくりと過ごせる場所を確保している。また、のんびりしたい時には廊下のベンチで過ごす入居者もいる。 ●気の合った入居者同士ベンチや自室で話をして過ごされる。 	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●できる限り使い慣れた物をお願いしているが、それが裏目に出る場合もある。(入居したこと自体理解されていない場合) ●仏壇やTV・椅子等がある入居者もおいでる。 <p>(外部評価)</p> <p>ぬいぐるみや仏壇を置いている居室もみられた。又、亡きご家族の写真を飾っている方もいる。ひとり暮らしが長い利用者は、居室で過ごす様子もみられるが、多くの利用者は、日中は居間で過ごし、就寝時に居室に戻られるようだ。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●十分なアセスメントを行い入居者を把握したうえで、どの入居者にも安全な環境を提供できるように心がけているが、A氏には安全でもB氏には危険な環境になり得ることを理解し援助を行っている。そのため、安全には十分注意を払うが、全ての入居者に安全な環境づくりは困難を極める。 	